



きずな

トラック協会杯 第31回全道U-11 少年サッカー大会 札幌地区予選

石狩FC レッド、南月寒サッカー少年団、LIV
football club、FC DENOVA (A)、AGGRE U-12、
篠路FC、SSS 札幌サッカースクール(A)

全道大会進出おめでとう！！

札幌で開催される全道大会の札幌地区代表を目指して7ブロックに分かれて各会場で熱戦を繰り広げました。結果、上記7チームが全道大会に進出することになりました。

に石狩が押しこむ展開が多くなる中、前半4分に石狩2番が先制点を奪取。その後もDENOVAはなかなか石狩のパスワークを捕まえられないまま、前半7分に石狩8番の右足から放たれたシュートはゴール左隅へ。順調にスコアを積み重ねて行く。



前半12分にゴールから少し離れた位置からのフリーキックを得たDENOVA、直接狙うも枠の上を通過する。そのまま石狩ペースは続き2-0で前半が終了。

後半も開始早々から石狩が2分に13番がドリブルで仕掛けペナルティエリア内に侵入し、そのまま冷静にゴール右に流し込んだ。それでも絶対に諦めない姿勢を崩さないDENOVAの選手たち。球際でもしっかりと身体を寄せて好きなようにはさせない。後半5分には高い位置でボールを奪うシーンも見られ、その結果少しずつDENOVAがボールを持つ時間が増えてくる。しかし、残り時間が少なくなるにつれ選手の疲労が見え、また石狩のペースになる。後半10分に石狩のパス交換からペナルティエリア内で受けた11番のシュートはバーをかすめた。石狩の攻勢は続き、終了間際に、石狩2番のゴールが決まりダメ押し。間もなく試合終了のホイッスルが鳴り響き石狩FCレッドが4-0で勝利し全道

Aブロック代表決定戦

8月24日(土) SSSグラウンド(A)

FC.DENOVAホワイト

石狩FCレッド

0

0-2

4

0-2

選手にとっては動きやすい気温の中で両チームともに試合前のアップから緊張感がとても伝わってくる。キックオフは石狩FCレッド、開始早々の石狩11番のシュートは枠をかすめる。序盤は石狩が前線からDENOVAホワイトを追い込んでいく。徐々

大会進出を決めた。

0-4というスコアではあったが、どちらのチームもフェアにそしてハードにチャレンジしていく、とても良い試合であった。



Bブロック代表決定戦		
8月24日(土)コンサドーレグラウンド(A)		
札幌常盤		南月寒
0	0-0 0-1	1

12:45、コンサドーレ会場最後の代表決定戦が始まった。

開始から互いに相手の良さを消しながらの展開。球際の攻防が激しく、拮抗した試合の入りとなり、お互いになかなか形がつかれない展開となったBブロック代表決定戦。

前半3分に南月寒が相手ペナルティエリア前フリーキックのチャンス、7番がシュートするもゴール上へ外れる。11分には常盤10番がこぼれたボールに抜け出しペナルティエリア左からシュートも右ポスト横に流れ外れて行く。そのまま互いにチャンスを作れず前半を終了。

後半のファーストシュートは南月寒。そこからコーナーとチャンスを多くつくるが決定的な場面まで作れない。6分、常盤キーパーから10番へ、パスを受けた10番がハーフウェーラインからドリブルをスタートしペナルティエリアへ進入しシュートするも外れる。その直後に南月寒がチャンスを迎え、8番の落したボールを7番がロングシュート。入ったと思われたシュートは惜しくもゴール外右側のサイドネットに外れる。そして迎えた13分。同じような形で南月寒7番がロングシュート。先ほどのシ

ュートから微調整されたシュートはゴールに吸い込まれた。南月寒が先制点を良い時間帯で獲得し、そのまま試合は終了。南月寒が準決勝・決勝と集中力の高い試合をみせ全道大会への切符を手に入れた。

Cブロック代表決定戦		
8月24日(土)コンサドーレグラウンド(A)		
LIV football club		上江別 Jr.FC
1	1-0 0-1 0延長0 4PK3	1

厚別区を代表する2チームの代表決定戦となったCブロックは上江別のキックオフで試合が始まった。

開始直後からLIVが力強い攻撃を始め、44番のペナルティエリア左からシュートは上江別キーパーがセーブ。2分にLIVのフリーキックはキーパー正面。LIVがショートパス、ドリブルと多彩な攻撃を仕掛ける、対して上江別は10番を中心にゲームを作り、8分その10番が自らドリブルでLIVゴール前に抜け出しシュート。これはゴール左へ外れる。そして12分、LIVが44番からのラストパスをペナルティエリア内で受けた55番がゴールし、LIVが先制し、1-0で前半を終了。

後半はハーフタイムに気合の入った上江別が3分に10番がハーフウェーラインからドリブルをスタートしペナルティエリア前で9番とワンツー。抜け出すとフリーでシュートを放ちLIVゴールに突き刺し同点となる。その後も両チーム攻め続けクロスバー上、ポスト横など、惜しいシュートを見せるが、1-1で後半終了となり、延長戦に突入となる。

延長戦では短い時間でなかなか攻め切れない中でLIVがサイドバックのオーバーラップからチャンスをつくるも得点に繋がらず延長を終了しPK戦へ。

PK戦の先行は上江別、互いに3人目まで決め、上江別4人目がゴール右に外す、LIV4人目が最後に決め、LIVが札幌代表を決めた。互いにチームの特徴の良さを出し合った試合となった。

Dブロック代表決定戦

8月24日(土)コンサドーレグラウンド(B)

FC DENOVA(A)

北海道コンサドーレ札幌(A)

3

2-1

1

1-0

コンサドーレのキックオフで試合が始まった。コンサドーレはDFからパスをつなぎ好機をうかがう一方、DENOVAは早いプレスからボールを奪う構図となった。立ち上がりの1分、DENOVAMF10番が中盤でボールをキープしてFW11番とのパス交換からDF裏に抜け出し、冷静にゴールに流し込み先制点を奪った。次第にコンサドーレの丁寧なパスが好機を作り、5分には中盤に奪ったボールが右サイドに開いていたFW9番につながり、ペナルティエリアに入ったところで、左足でシュートをはなちゴール左隅に決め同点に追いついた。しかしその後はDENOVAのプレスがきき、11分にも9番がパスカットからDFをかわして得点を奪って逆転。そのまま前半が終了した。

後半も同様の流れとなり、コンサドーレはDFから左右へ振り前線へとつないでボールを回し、DENOVAはプレスからの速攻という形が続いた。後半開始直後の1分には、ルーズボールを拾ったDENOVA11番が素早くシュートを打ち、だめ押しの追加点となる3点目を取り、突き放した。コンサドーレは、丁寧にボールをつなぎ好機をつくろうとするも、早くて強いDENOVAのプレスに耐えきれずボールを失う場面が多く見られ、結果として、終始優勢だったDENOVAが全道への切符を得た。

試合開始早々AGGREがベアフットの背後を積極的にとり、ベアフット陣内での攻撃が続け、その流れの中で19番のシュートで先制点を奪った。その後もベアフットが耐える時間が続き、AGGREは前線からのディフェンスで、ベアフットのボールがなかなか前へ繋がらない。その中でベアフットが中盤でAGGREのパスミスを奪ってミドルシュートを決め同点に追いつく。

しかし、直後のAGGREのキックオフ後の6番のロングシュートをベアフットのキーパーのファンブル。AGGREが2点目奪う。さらに前半の終盤にはAGGRE18番がドリブルで中央突破し追加点を奪い前半は3-1で終了する。



後半開始直後にAGGREコーナーキックからのボールがOWNゴールを誘い追加点。AGGREは後半も前線からボールを追い、ボールを奪ったら前線へのランニングを欠かさず運動量が多く、ベアフットはなかなか形を作れない。流れは変わらずAGGREの攻撃時間が長くなり、コーナーからさらに11番が追加点。そのまま試合が終了し、5-1でAGGREが勝利。全道大会への切符を手に入れた。

試合は終始AGGREが運動量・球際の強さで主導権を握った試合展開となった。



Eブロック代表決定戦

8月24日(日) SSS グラウンド(B)

ベアフット北海道レド

AGGRE U-12

1

1-3

5

0-2

Fブロック代表決定戦

8月24日(日) コンサドーレグラウンド(B)

sabioFC 札幌

篠路FC

0

0-2

0-1

3

sabioFC 札幌のキックオフで試合が始まり、序盤は互いの出方をうかがう静かな立ち上がりとなった。次第に篠路FC 10番が中盤でボールをキープしてから優勢となり、2分には10番がDFの前で巧みフェイントから一瞬の隙を突きGKの位置を見てシュートをはなち先制点を奪った。10番の高いボールキープ力による得点だった。一方のsabioは懸命にボールをつなごうとするも、前線では篠路のディフェンスに阻まれ好機をつくれな。6分に篠路は、パスカットでボールを奪った右MF 9番が右に流れながらDFをフェイントでかわして抜け出し、追加点を奪った。sabioは追いつこうと、細かいパスや、長いボールを前線に入れ好機をつくるもそのまま前半を終えた。

後半に入ると、sabioの長短のパスがつながり前線へ供給できるようになるが、篠路が懸命なディフェンスにはね返すという時間が続いた。このような中、後半8分に篠路が得た左コーナーキックのルーズボールを10番が巧みに拾い、DFをかわしてシュート。決定的な追加点を奪った。試合を通じてsabioはチャンスをつくり、シュートを放ったがゴールを奪えなかった。篠路は高い得点能力を有する10番が序盤で確実にゴールを決めた事が試合を支配する事となり、篠路FCがそのまま逃げ切り、安定した試合運びで全道へ駒を進めた。

リベルタ栄町のキックオフで、前半がスタート。開始からSSSは人もボールもよく動き、ゴールに迫る。これに対し、リベルタ栄町もしっかりと喰らいついていく。前半4分、ペナルティエリア内でボールを受けたSSS 10番の右足からのシュートはポストを叩く。その後も球際で身体を張ってマイボールにしようとするリベルタ栄町。9分には、SSS 10番がゴール前までドリブルで仕掛けてゴールキーパーと1対1を作るも阻まれる。さらに、10分、11分と立て続けにシュートまで繋げる攻撃を見せるSSS。しかしなかなかリベルタ栄町のキーパーの壁を超えられない。前半はそのままSSSペースなもののスコアは動かずに前半終了。



なかなかゴールが生まれない展開かと思いきや、後半開始早々にSSS 10番が右サイドからセンタリング、そのボールを6番がヘディングでゴールを決め、早々に大きな先制点を得る。守る時間の多くなったリベルタ栄町の選手たちも疲労は隠せないが気持ちを切らずに諦めずにボールを追いかけ続ける。11分にピッチほぼ中央の位置からのフリーキックを得たリベルタ栄町がゴール前に送り込むもシュートまでは繋げることはできず。

後半14分、SSS 6番が右サイドを突破し逆サイドの8番にスルーパス。ペナルティエリア内で受けた8番がそのまま右足で冷静にゴールに流し込み2-0。このまま終了を迎え、SSSが全道大会への切符を勝ち取った。

Gブロック代表決定戦

8月24日(日) SSSグラウンド(A)

リベルタ栄町

SSS札幌サッカースクール(A)

0

0-0

0-2

2

